

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
LICENCED PRODUCT
© The Minen Company, 2000



大海のつら
えりつ編成十

滑石二日酔い

十返舎一九著
葛飾北富要
晦日

13
2843
1



あつけい
其化の元祖

十返舎一九著作目録

道中 ぶぎくろり毛

東海 巻 十八冊
本巻道中 二十五冊
奥相巻中 十五冊

大晦日りう
元日餅被り

滑稽二日酔

當柿前小倉老金
全二冊

浮世
あはれ

滑稽六あみぞう坊

初編
貳編
三編
各二冊

馬の耳
花あ

滑稽大陣笠り

全二冊

東京
日本

珍々滑稽巻巻屋

全二冊

滑稽二日酔序



前漢書檀長卿能舞為沐猴与

拘閑座皆大笑は音小據或の

狂歌子拘と猿あり晦具人もそ

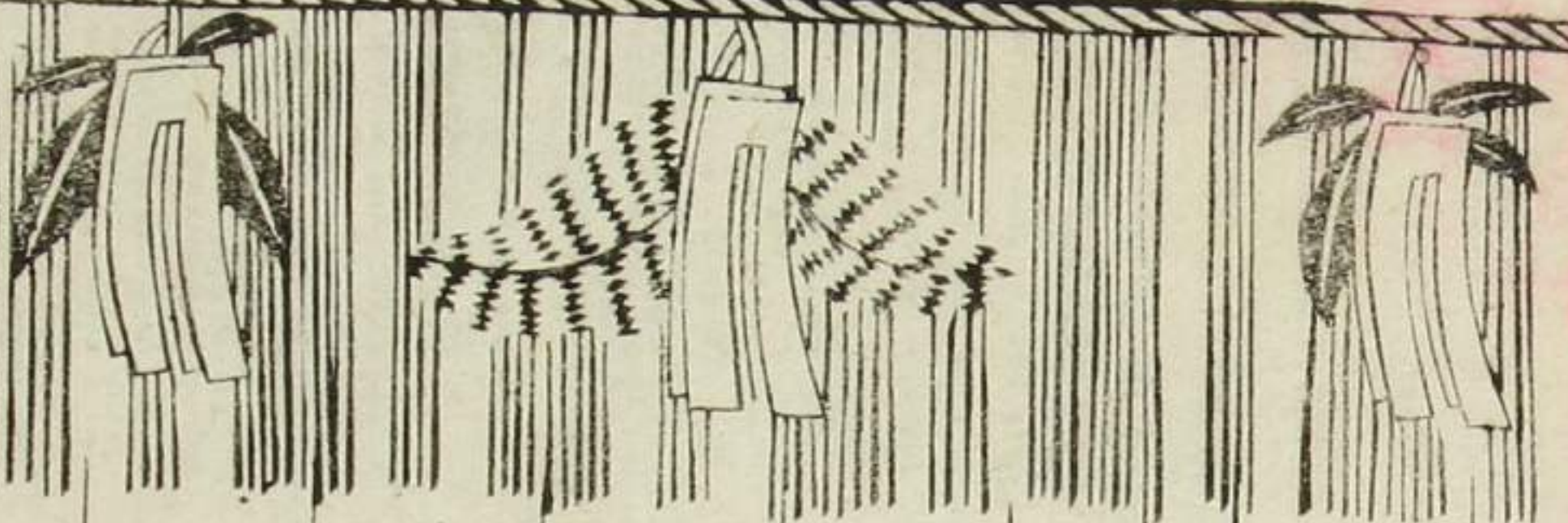
朝む山まぐくまふに拙冬月雪

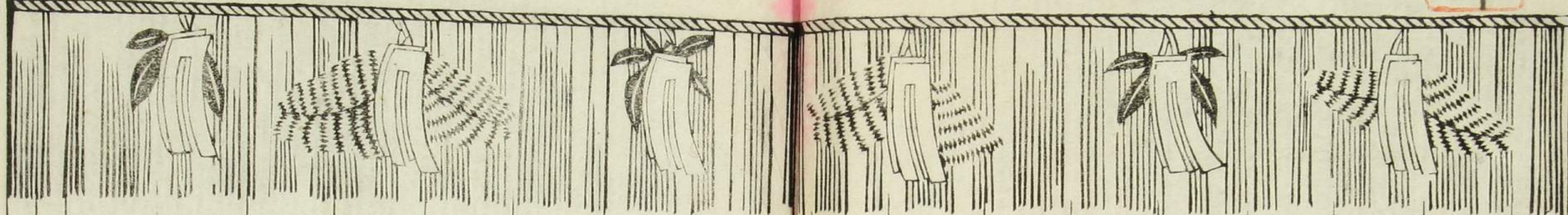
詠くく冥く遠くまの真中くさねが

韓信の股とくらあくる毛毒金令朝

と屋公言の言尻をよとらち書文も

二日酔





拵^{たづな}病^{びやう}も掛^か取^とけ鞆^{たもと}も^も襷^{たす}も^も未^まだ

元^{もと}日の格^{かく}式^{しき}身^みは^は温^{ぬる}風^{かぜ}和^わ順^{じゆん}の人^{ひと}は

心^{こころ}ふ^ふは^は時^{とき}も^も期^きは^は後^ご悠^{ゆう}々^々屠^と屠^と禊^そ

酒^{さけ}のあ^あは^はは^は身^み進^{しん}の三^{さん}味^み線^{せん}ふ^ふ

れ^れも^もは^は侍^{さむらい}供^{きやく}は^は口^{くち}を^をあ^あげ^げず

ら^らの^の娘^{むすめ}往^い来^{らい}の^の影^{かげ}は^はあ^あら^ら鞠^{まげ}は^はさ^さ

ま^まま^ま追^お廻^{まわ}り^り花^{はな}も^も鳴^{なる}賞^{しょう}水^{みづ}も^も蛙^{かえる}

ま^まま^まの^の歌^{うた}は^はあ^あら^らま^まま^まま^ま

あ^あら^ら忠^{ちゆう}心^{しん}を^を守^{まも}り^りて^て推^お坊^{ぼう}さ^さの^の側^{そば}を^を

放^{はな}す^す須^す持^ぢび^び徳^{とく}を^を不^ふど^どと^とま^ま下^{した}女^めぞ

ん^んの^の外^{そと}三^{さん}波^ぱふ^ふ出^でる^る二^{ふた}百^{ひゃく}銅^{どう}の^の草^{くさ}羽^は

織^{オリ}も^もあ^あら^らま^まま^まま^まま^まま^ま

あ^あの^の子^この^の獅^し子^し小^こ雪^{ゆき}も^もあ^あら^らま^まま^まま^ま

あ^あら^ら太^{たい}鼓^こ萬^{まん}歳^{さい}の^のつ^つも^もあ^あら^らま^まま^まま^ま

あ^あら^らあ^あら^らあ^あら^らあ^あら^らあ^あら^らあ^あら^らあ^あら^ら

あ^あら^らあ^あら^らあ^あら^らあ^あら^らあ^あら^らあ^あら^ら

二月

二

其の二日酔を題号し
 笑ひもどめは福壽草本女の赤
 ぶん仕とてめでたしとて山晒落
 の御山々玉相替り喜の遠見
 負給ひ上まは例に

十返舎一九のふ

文化八年

辛未孟春

真無

醫者著書は備へしと云の注をり際々々々
 まりしはゆりたるをあり乃ありと物あり
 たがふ類成赤あり小朋立上りあり泣き
 ありはれは生解本性とてはとてあり
 帝鋪き浮世人の世度小解とて同遠をけ
 の体はありり次小備とて軽口師の世
 けり網を一本木河の徳やと愁は撰ふ幕
 えてとぬえ月々年中頭痛録巻一本校
 恥と世大の酒とて未と塾中一本校
 とあり世界と酒とて未と塾中一本校
 ありしはつとて二日酔のりち哉とて趣向
 だん御月小かけま及其とては上さや

滑稽二日酔上編

大晦日之部

東武十返舎一九著

極月といつて一とせのおもしろにして中華殿の代わ
建丑の月と兼首とせしふより。今月朔日のまゝのち
般の正月元日あり。乙子の晦より春をうめてよく
人の夜をつくとけ月にもあまをうとくめでうとく
若松さぬと。篠を中て煉と俱ふる平乐的にちち
せど。ちや正月の神田まで。さうさうざれやくくと。

吾妻のみに遊ばし。債着のりち。個につまる。晦日の
鬼のいろあま。赤鯛橋も頼忌せざれば。笛ちと
つらふ。おのらせと。福もうち居合さ。山の神
の普盧那が森もあまのさ。因甚杉樹の通力も
用なく。ちあ人どに。大猫と何ふ。さ。へ。天晴男一人
まへ。あ。い。ん。ゆ。さ。才。金。銭。づ。く。に。か。り。て。い。懺。悔。會。の。比
奈。と。い。ふ。と。も。あ。ま。り。あ。ま。り。と。あ。と。こ。ろ。に。か。く。一。雷
声。と。お。と。と。く。笑。ひ。の。儒。子。に。ひ。く。く。暮。礼。の。枕。に
たち。つ。ら。萩。匠。に。似。て。い。く。ち。も。あ。く。あ。く。と。い。し。も

一教ありまじ。忽陽氣殺教してあぢせのくくと
あぢせにありけるもかりく。げふや若の米のめと。
楽の若のめとなりと。生涯けふのそ持あそびして
くらた工。まふまのあひひめて。とくく浮世のかりし
とりのと。由良の筋の芳春ありる。あに所のつづら
ふやありけん。獅子飛早之助といふ。新業跡。年中渡
世の総つづらして。老きを老きとせず。蓮臺の上にて。蓮
廣大降の電祥せし。とく。悠くとあまけつらし。腕に
一とせの打出し。大晦日の本戸際となり。俄に目さめて。

上二

足元はくちをにわたり。あぢに火のつれゆる。小仰
天して。さふれまの道ど。かりく。あぢの智恵。大業もそ果
まのくらと。宝荒神さぬも。えんも。されける。身のり
ふとも。後房あく。夫婦あふびて。さるの鼻せつた念せ
田ツのそとく。小首も。對にのふけまがら。つそのとさ
道と。實教。強利の底うち。てれた。居のの。槍七と。おま
し。て。酒くそ。わい。中ぐら。わの。わろ。餅ま。げん。と。あり
るに。▲。子。助。ア。あん。ご。ろ。お。り。て。の。あ。だ。や。う。ご。が。お。ら。が
所。の。火。の。消。つ。さ。や。う。ご。ホ。ニ。ま。ご。神。柳。へ。お。焼。ぬ。と。あ。せ。あ。げ

ねへせめてもの工ん。かひのせあうさくしてあげらへ
ヲ、そぞろく。ちつとぞうりよのころ持にあつこのみ
おちやん。ニウ呑りけこのおい大晦日のよふトやアねへりよ
大丈まご。ナンノおまうころアねへ偽令で首足のおげ
ためしねへりら。おちやんおまうらよめへが。そまよと
ちりそいつく。鬼ども我西のうみへささるるとやら
りしておまへハテ今おでも田舎りら。正月芝居せう
つくおのる令がまこあら。勘定おませうといへばよ
▲女おら ㊦ヤツらちやアめめ。相まへ工ん言りけと
おちやん

ナろあやアおまをて中こ ▲おま一とんあら控七居り
の役ごもめへ引うけてくおねへり ▲居り外 アニハアコ
とも田舎りんごござらア。おんと言てよりんづのう
ありま一あの ▲おまおづり工んアねへ。おめへも田舎
おごころをおお苦勞人ごよのようになまごくあつと
おまみく トけうちをやおめておら ▲おまやハイおめんあざり
おせ ▲おちやん「おめへとごご」 ▲うけとり「新居の末屋で
ござりおまを ▲おま「ナニおまやごつおぞんご工んともねへ」 ▲おま
ハイ「ごご」の昨日あそこへなごに参りま」 ▲おま



「^{びり}左理こそ。コレ^{カク}款をあらね人にならひい渡されね
ふ▲米や「^{わんぎや}イヤ」形をのつゝ^{まの}集りすゝ▲^{かん}左ま「ナ」^{かん}二作
形が^{かき}あてにあらぬのり▲米「^いらさぬ^そこも^おざり^{ます}す
▲^まま「^さぬ^のめ^いい^とぐ^さる^まに^戸の^務ま^い
ある^ゆへ^いと^さざ^あて^えせ^よふ^大坂^ので^ある^ふ
▲米「^エく^究ち^のと^あち^らで^ござ^りま^す▲^まま「^ナニ
ま^ごこ^のち^ぶを^んあ^ら大^和り^河内^り▲^米「^ハイ^のあ^ちの
と^あの^ち▲^まま「^三河^り尾^張り▲^米「^のあ^ちつ^とこ^のち▲
ま^ま「^ムウ^遠州^り但^一の^後河^府中^ある^り▲^米「^ハイ^のあ

ま^ごこ^のち^ぶを^んあ^ら大^和り^河内^り▲^米「^のあ^ち
つと▲^まま「^戸塚^り稻^ヶ谷^り。川^漆り^加奈^川と^いく^ゆへ
▲^米「^まご^のめ^いと^ござ^りま^す▲^まま「^七ん^あら^お川^り▲^米「^のあ^ち
ち^のと▲^まま「^をや^てと^ござ^りま^す▲^米「^ハイ^のあ^ち南^地で^ござ^りま^す
▲^まま「^ハア^やの^つら^り江^戸老^り。ハ^テ教^るの^人の^きく^んへ^る物
い。▲^まま「^あん^にと^ら。貴^さぬ^の款^を今^教え^まつ^くか^くり^ます。
け^るに^おお^まさ^らせ^へ▲^米「^ハイ^のあ^ちあ^らマ^アいつ^て集^りま^す
せ^う▲^まま「^ナト^樽七^んあ^いお^んを^いに^ちあ^らひ^いや^りま^す。
ま^ごこ^のち^ぶを^んあ^ら大^和り^河内^り▲^米「^のあ^ちつ^とこ^のち▲^樽七

ごる。手ぬへもとんごこととひ物ぶ。アリヤアやんをさ人しや
ねへあそこのていもさむらい▲捨いをんでもハア。フーいどまむら
りしてかつりへい▲を吏「イヤいまにまいころごらりら
今度者こんどさきやが来きこあら。かうひがよのけるまさめのお
うらよいさい者いのくさうてあつい。圓形だんみのひつけぐ。
まのふちろし。片身くしみのさいみ。片身くしみの吸物すひものにあらとひの
あゆいのころらついけいるいるいおが。ゆいくいてひと
くちもいけねへおよつて。そまいないにくいのせいまいついこのあ
あふいめいのいといさいころらいふいのい拵せうつていのいやいれいねいるい。

けるにいごいれいといくいらいついくいちいがいよい▲捨いのいこいみいま
しい▲を吏「かいらいむいついすい進いめいへいよいトい又いかくいへいゆいくと
ハい寺い所いのい石いをいめいでいさいりいますい先いをいていのい石い塔いのい代いを
あいさいさいりいませい▲捨い「アいニい石い塔いのい代い。けるハいア
あいのいおいらいらいよいさい石い塔いのいさいらいていあいつい。アいニいカいハいア
圓形だんみといんいのいひいついけいでいこいまいのいふいちいろい。片身くしみのいさいみい。片
身くしみのい吸い物いにいあらいといひいめいらいハいアいらいついくいけいえいこ
おいがいアいニいハい。ひいといついくいもいらいけいねいのいんいごいアい。らいらいんいまい太い
めいにいふいちいくいらいせいくいまいまいついハいのい。あいんいめいのいといよいこ



ヤアイくー▲口上「あまの志る。体が冷まるたい▲あまの志る
 さん。みんなを志せさる志の▲女府「エのふ何も志せる
 ののいあぶりません▲あま「ソリヤ笑止なせのうくと
 じけあめ。けはあつてん救いあもあまの。あまよ。
 かくさんしてやんかきせさる志の。何よりりあまが
 志んでの店賃の香菓をやく医者とあまの志る。
 ドレ階うらの寸伯でも。あまがそふいつくやりませう。
 あまの志るくふあまの志る
 やがそむくとあまの志る
 ▲あま「口上「あまの志るくふあまの志る
 ▲あま「口上「あまの志るくふあまの志る

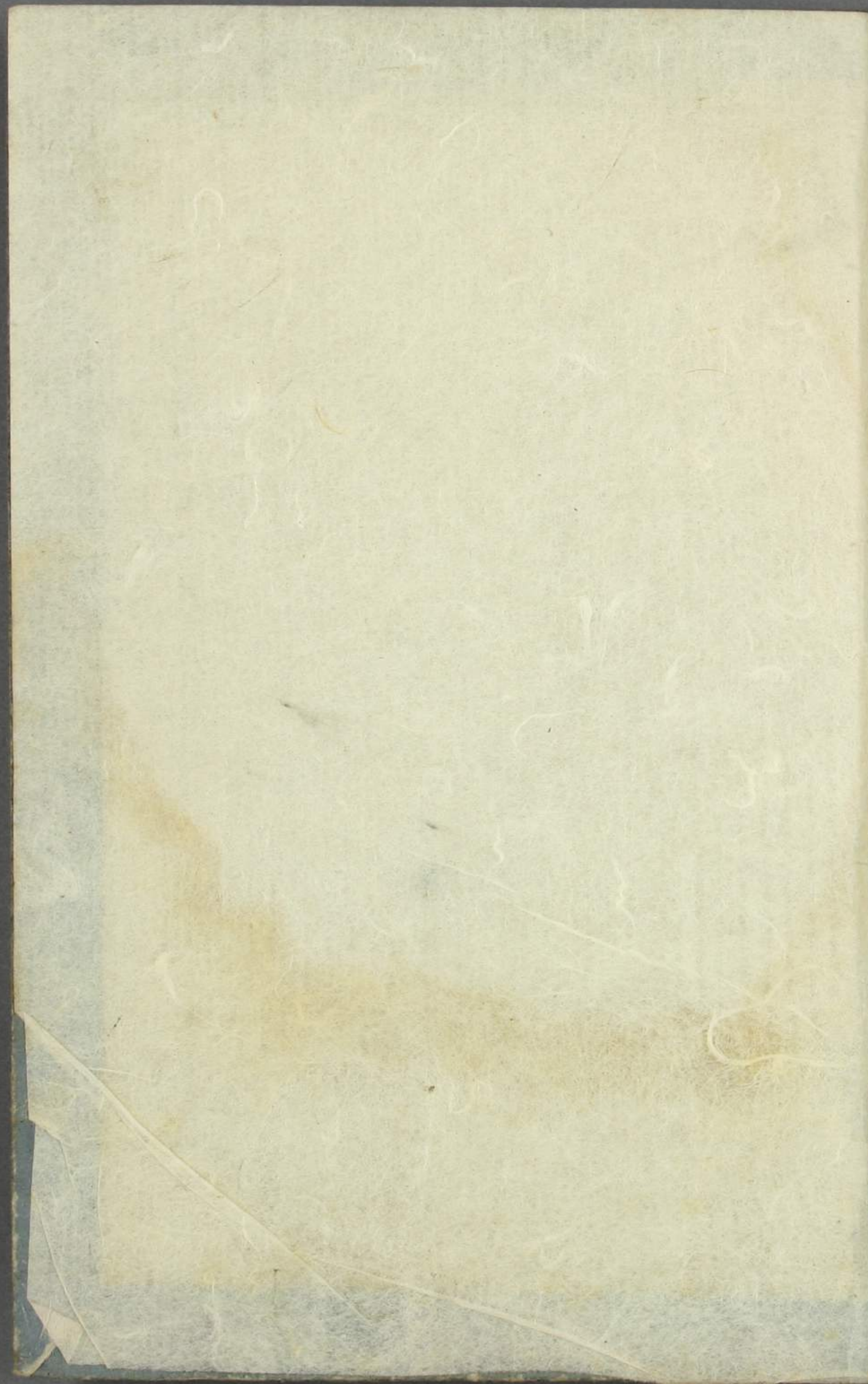
なづさの志るくふあまの志る。体が冷まるたい▲あまの志る
 しあまの志るくふあまの志る。体が冷まるたい▲あまの志る
 の志るくふあまの志る。体が冷まるたい▲あまの志る
 掛どりとあまの志る。体が冷まるたい▲あまの志る
 あまの志るくふあまの志る。体が冷まるたい▲あまの志る
 ▲あまの志るくふあまの志る。体が冷まるたい▲あまの志る
 ぶどの志るくふあまの志る。体が冷まるたい▲あまの志る
 口上「あまの志るくふあまの志る。体が冷まるたい▲あまの志る
 口上「あまの志るくふあまの志る。体が冷まるたい▲あまの志る
 口上「あまの志るくふあまの志る。体が冷まるたい▲あまの志る

またぞく。おまさん氣を志つくりめめめ。ハイなま
さぬヤアイく。▲うけあがり「どふぞあされまし」ころ▲女房
ハイ将業の下橋おど。ツイ様我をい「まし」▲うけ
「そ通いさん」ご「ご」。モシおまさんぬアく▲あや「コリヤめめ
いけね」ぐ。モシなんあらうこ「ー」めりかけふ。ちかへそふ
りませうら。そしそせまらう増もまぐお私へこちうめん海文下よりま
せ▲女房「ナニまぶ」死おもさる志中らねへうちうら。今に
んがまつたやせう。おまさんぬアくトは内なりてより▲田舎めの「エ」お
さつ志おます。こーごのハイまろが波河のめんでござるヤア。山月

芝まの約ちくそくおんご。手附てつけの令うみめつる来きまし。こ「ヤア」によ
「コリヤ手附てつけ」ごと。コレおまさんめめ氣がついてもよろらふ。
おまさんぬヤアイ▲田舎「エ」おまさんどのの目とまの志中らこ
らヤアそんなハイ。令うみめつるめめヤア▲ま「ア」めりく今
に氣がつたおま▲うけ「今氣がつくあらまし」くおま▲ちか
「イ」くけおまの「う」の癪くせで目とまの志中らこ「ま」や。は「ま」
氣まのつらむにわるとがあるうら▲うけ「ア」それとヤアつ
まらねへうらマアめりやせう▲田舎「ア」ごの「せん」ららさ
マア▲は「ま」もと時とおよつ。直まに氣まのつくともあるうら。

マア 後海の元まがの元もとのちつとまぢみせ入▲うけり「せんまぢ
つらも。今かーまつてんませう▲こ「たせい又
あさけね。さぞたまよのまのつらうがよろうら。
但いのうらうらとをめんて目とまのてわさうら
のふ。コリヤぶーらよろうら▲うけり「何ホーホーはホーも
いさ灸灸でもささるがよの▲田舎「ホニホニをさうよろうら
▲女房「エーけ人のめよふ灸灸とすると。却くくくがつか
中せぬ▲たま「ウー▲ま「コリヤたまさん。気がつかり
▲うけり「サアあまぞく▲ま「エー又そのあついの

▲田舎「いゝいめとでも。ちつとア臧臧もうつことがあつ
ヤア。おろつさぬ鉄鉄槌槌と釘釘があつたさうたま。
うつとやまにヤア▲たま「ア釘釘をうこれくさる
めのり▲ま「アたまさん気がつかり▲たま「ホニ
これたまに気がつかりたま。コリヤ後海まがのうらうら
か出出されたらどうどうなれば。手て附つけ合あい打うち系けいぶぶさうたま
また内うちちちでたま▲田舎「そこらの目とま
しとさうてそれをいゝまのく居いまのつつヤア
約束やくそくのうら合あいいにッレ合あいいとたま



卷之十下

